

岸和田のほ乳類

風間 美穂

大阪府内のほ乳類

2014 年に大阪府が発行した「大阪府レッドリスト 2014」によると、大阪府内では 29 種の在来ほ乳類の生息が確認されているそうです。これに、移入種（アライグマ・ヌートリア・ハクビシン・タイワンリス・ノネコ・ノイヌ）6 種を加えると、府内には 35 種のほ乳類が生息しているということになります。そのうち、岸和田には何種生息しているのでしょうか？市内全域での本格的なほ乳類調査は行われていませんが、自然資料館に収蔵されている資料や、市民から寄せられた目撃情報、当館スタッフの観察記録などから、岸和田市域には 27～29 種が生息していると考えられます。今回は、このなかから 3 種類を紹介します。

＊ 大阪府レッドリスト 2014 は、大阪府 HP 内に掲載されています。ほ乳類に限らず、大阪府内にどのような

な動植物が生息しているのかを知りたいときは、こちらのサイトをごらんください。（<http://www.pref.osaka.lg.jp/midori/tayouseipartner/redlist.html>）

ヤマコウモリ（ヒナコウモリ科）～大阪府唯一の記録～

大阪府内では現在、8 種のコウモリが確認されています。そのうちのひとつ、ヤマコウモリの標本が、自然資料館に収蔵されています（図 1）。採集地は、岸和田市有真香村、現在の修斉小学校校区のあたりです。採集時期は、1935（昭和 10）年 7 月で、採集者は、長年大阪府立岸和田高等学校で教鞭を執っていた、中島徳一郎氏です。今から 80 年以上前の標本ですが、大阪府内に本種が生息していたことを示す確実な証拠となるのは、現時点ではこの標本だけです。



図 1. ヤマコウモリ

ヤマコウモリは、日本産のコウモリの中では大型の種で、昼間は木のうろなどをねぐらにし、夕方から夜間にかけて活動します。野生のヤマコウモリは、夜の間に体重（約 40 g）のほぼ半分にあたる、20 g もの昆虫を食べるとのことですから、当時の修斉小学校区周辺には、それだけ多くの昆虫が生息できる環境が残っていたということでしょう。

だれでも一度は見たことがある？ほ乳類「アブラコウモリ（ヒナコウモリ科）」

一般に、野生のほ乳類を見ることは難しいとされていますが、アブラコウモリは例外かもしれません

（図2）。特に6月から10月初旬にかけての日暮れ前に、人家近くのため池や川原，農耕地などの開けた場所で、鳥より少し低いところを鳥のような生き物が何匹かで飛んでいるのを見たことはありませんか？これは、アブラコウモリが飛びながら、ユスリカやヨコバイなどの昆虫を食べているところです。

アブラコウモリは、体重約8g、頭胴長が5cm以下の小型コウモリで、岸和田付近に年中生息しま

すが、気温が15℃以下になると木造家屋の屋根裏やビルの通風口などで冬眠するため、人の目につきやすい時期は限られます。毎年7月ごろに子どもを産み、その1ヶ月後には巣立ちをするため、もっとも多く見られるのは、巣立ちしたての若いコウモリがいる8月から9月初旬です。もし、自由研究で何をテーマにしようか迷っていたら、夕方活動するアブラコウモリをとりあげると良いかもしれません。

しかし最近、木造家屋やため池など、エサの多い場所が少なくなったことから、見かける場所や数が少なくなっているように思えます。



図2. アブラコウモリ（伊奈達雄氏撮影）

丘陵地から山地で見られる「ニホンノウサギ」

神於山やその近くのみかん畑を歩いていると、ノウサギの姿をみかけることがあります。これは、ニホンノウサギという日本固有種で、食物となる植物が豊富で隠れ場所の多い雑木林や草原に好んで生息します。4月から8月にかけて3～5回出産し、岸和田市内でも、6月から8月にかけて、丘陵地の草はらや農耕地で子ウサギを見かけることがあります。右の写真は2013年6月1日に、当館専門員の児島格氏が神於山の林道で撮影したものです。



図3. ニホンノウサギ（児島格氏撮影）

おわりに

このほかにも、岸和田市内にはニホンイノシシやチョウセンイタチ、アライグマなど、いろいろなほ乳類が生息しています。どんなほ乳類が生息しているのかもっと知りたい方は、現在開催中の特別展「きしわだホネホネ・ルーム ―ようこそ！骨とはくせいの部屋へー」をぜひごらんになってください。会期は2月19日（日曜日）までです。この特別展では、岸和田市内に生息するイノシシやタヌキ、動物園でおなじみのキリンやライオンなどの剥製や骨格標本を多数展示しているほか、縄文時代の貝塚「日下貝塚」など、大阪府内の遺跡から発見された、当時の人々が食べていたと考えられる動物の骨なども紹介しています。岸和田市内の市立小中学校と幼稚園には、昨年12月に特別展のポスター・チラシとともに招待券をお送りしていますので、ぜひこちらをご利用ください。学校行事での利用も大歓迎です。また、屋外でイヌやネ

コ以外のほ乳類の写真を撮られたり、あるいは死体を見つけたりした場合は、ぜひきしわだ自然資料館までご連絡ください。ほ乳類の貴重な生息記録として、蓄積してゆきたいと思います。ご協力よろしくお願いいたします。

(かざま みほ：自然資料館)

「貝塚市歴史展示館」で、貝塚市の近現代史と「東洋の魔女」を知っとこ！

上畑 治司

「貝塚市歴史展示館」について

貝塚市歴史展示館（愛称：ふるさと知っとこ！館）（図1）は、1935（昭和10）年、大日本紡績株式会社（のちニチボー株式会社、ユニチカ株式会社）貝塚工場の操業にあわせて建設された事務所棟を引き継いで、平成17年にオープンした展示施設です。館内には、展示室が2室あります。展示室Aでは、貝塚市の歴史を紹介するさまざまな企画展を開催しているほか、貝塚市および泉南地域を代表する近代産業であった紡績業に関する資料や貝塚工場に設置されていた豊田自動織機などを展示しています。また、展示室Bでは、「ニチボー貝塚バレーボールチームの軌跡」と題して、「回転レシーブ」を生み出した体育館の床板など、貝塚工場におかれた女子バレーボールチーム「東洋の魔女」ニチボー貝塚に関する資料を展示しています（図2）。

入館は無料で、午前10時から午後4時まで開館（正午から午後1時は閉館）、休館日は火曜日、祝日、年末年始となっています。学校の校外学習や団体見学の受け入れも随時行っています。

登録有形文化財 - 貝塚市歴史展示館（ユニチカ株式会社旧貝塚工場事務所）

国内の近世・近代建造物を保護するために設けられた国の制度に、文化財登録制度があります。当館の建物は、この制度にもとづいて国の登録有形文化財になっており、館自体も展示物のひとつとなっています。玄関両脇に見られる昭和初期に流行したスクラッチタイルなど、昭和初期のモダニズム建築の面影をところどころに残しています。また、展示室Bは、1945（昭和20）年に工場視察を予定していた昭和天皇の応接室として増築された建物で、近代建築によく見られる丸窓が一部に採用され、内装も展示室Aとは異なった趣のものとなっています。

「東洋の魔女」ニチボー貝塚

「東洋の魔女」は、1962（昭和37）年にモスクワで開催された第4回世界バレーボール選手権大会で、



図1. 歴史展示館の外観



図2. 展示室Bのようす

当時世界一であった旧ソ連チームを破り優勝した全日本女子バレーボールチームを評した「東洋の魔女恐るべし」というロシア語の造語からつけられたニックネームです。当時の全日本チームはニチボー貝塚を主力とし、1964（昭和 39）年の東京オリンピックにおいても、回転レシーブや変化球サーブを駆使して金メダルを獲得しました。

このように、当館は、貝塚市の近現代史と「東洋の魔女」ニチボー貝塚の軌跡について、展示を通じて学習していただける施設となっています。当館のご利用に関するお問い合わせは、お電話（072-433-7126、社会教育課文化財担当）にてお願いします。また貝塚市の「文化財」ホームページ、貝塚市の Facebook でも、展示や関連イベント告知等の最新情報も発信していますので、あわせてご覧ください。（<http://www.city.kaizuka.lg.jp/bunkazai/index.html>）

（うへはた はるじ：貝塚市教育委員会社会教育課）

Information

■自然資料館の展示案内■

特別展「きしわだ ホネホネ・ルーム

ーようこそ！骨とはくせいの部屋へー

ほ乳類、鳥類、両生類、は虫類などの骨格標本をとおして脊椎動物の体のつくりの多様性を紹介します。はくせいと骨格標本を見比べることができるので、形からその生き物のくらしを想像してみましょう。自然資料館開館のきっかけとなった蕎原コレクションをはじめ、岸和田高等学校や多くの市民の方々から寄贈された博物標本など、価値がある資料を大公開！会期中には、ホネにちなんだ実習イベントも多数実施します。

日 時：2016 年 12 月 23 日（金）～2017 年 2 月 19 日（日）

10:00～17:00（入館は 16:00 まで）

場 所：自然資料館 1 階ホール

入場料：高校生以上 400 円（25 名以上の団体 280 円；2, 3 階の常設展示も含む）・中学生以下無料

休館日：毎週月曜日、2017 年 1 月 31 日（火）

協 力：大阪市立自然史博物館、神戸市立須磨海浜水族園、滋賀県立琵琶湖博物館、高槻市立自然博物館、なにわホネホネ団ほか

■岸和田城の展示案内■

企画展「岸和田に残る文化財-市内の指定文化財-」

岸和田市内には多くの文化財があります。そのなかでも、市内の指定文化財を中心に岸和田の歴史を振り返ります。市内にある指定文化財を紹介することで、歴史ある岸和田の魅力を伝えます。

日 時：2017 年 1 月 18 日（水）～5 月 21 日（日）

10:00～17:00（入館は 16:00 まで）

場 所：岸和田城天守閣 2 階展示室

入場料：大人 300 円・中学生以下無料

休館日：3 月 20 日・4 月 3 日・4 月 10 日を除く月曜日

※お願い [fromM] は、学校教職員に 1 部ずつお配りください。

担当の方はお忙しいところ申し訳ありませんが、よろしくお願い申し上げます。

【from M】では、みなさまからのご意見、ご感想、ご質問等をお待ちしています。博物館での学習、研究等に関する情報、地域の自然環境や歴史に関する面白いトピックスなどがありましたら、ぜひご投稿ください。お名前、連絡先、所属等をご記入の上、右記の宛先までお送りください。電子メールでも受け付けています。

連絡・問い合わせ先

〒596-0072 岸和田市堺町 6-5 きしわだ自然資料館
TEL: (072) 423- 8100 FAX: (072) 423- 8101
Email: sizen@city.kishiwada.osaka.jp
自然資料館ホームページ URL:
<http://www.city.kishiwada.osaka.jp/site/shizenshi/>
(Yahoo Japan の検索で「きしわだ」と入力し、検索すれば、簡単です)